

地域が変わる



地域活性化の現場

高島

◎国境炭焼きオヤジの会

## 「活力を取り戻したい」住民の熱い思いが、夢の炭を復活 滋賀・福井県境の集落に新しい息吹をもたらす。



完成を間近に控えた炭焼き窯。原料の木を並べた後、天井部分を土で覆って炭を焼く

若い世代の流出が続くマキノ町の野口地区で、住民が結成した「<sup>くにざかい</sup>国境炭焼きオヤジの会」。半世紀以上途絶えていた炭焼きを復活させ、良質なオリジナルブランドの炭「<sup>むーたん</sup>夢炭」の開発を果たした。この炭が今、さまざまな変化を地域に起こし始めている。60歳以上の住民が取り組んだまちおこしをレポートする。

### 高島市の補助金が炭焼き復興を後押しした

国道161号線に沿って民家が点在する高島市マキノ町野口地区は、福井県敦賀市に隣接する文字通り「国境」の集落。35世帯74名からなる集落の住民のうち高齢者が60%を占める、いわゆる「限界集落」だ。この集落の有志が集まって結成した「国境炭焼きオヤジの会」の取り組みが、今県内外から注目を集めている。

その原動力となっているのが、地元の木を使った炭「夢炭」だ。1950年代まで地域で営まれていた炭焼きを復興し、地域ブランド化に成功。「火持ちが良く、煙も少ない良質な炭」として人気を呼んでいる。半世紀もの空白を隔ててどのように炭焼きを復興したのか。

「2010年に、高島市から『水源の郷活性化事業補助金』助成の提案を受けて、地域を活性化させたいと考える有志が集まったことがきっかけです。地域の魅力や資源を生かした事業を立ち上げ

れないかと考え、姿を消してしまった炭焼きに着目しました。この地域は良質な炭になるクヌギやコナラが豊富ですが、炭を焼かなくなったために山の木を間伐することがなくなりました。かつては成長した木を伐ることで新しい芽が出るのを促していたのですが、50年以上放置された結果、多くの木が朽ちて弱くなり、<sup>\*</sup>ナラ枯れ等の病気も発生しました。この状況を打開し、森林と人が共生する営みを取り戻したいと考えたのです」と語るのは、同会会長の古本勇義さん。

しかし、炭焼きの復興は容易ではなかった。最盛期には住民の9割が炭焼きに従事していたこともあり、作業を見たことがある住民は多かったが、実際に炭を焼いた経験のある住民はわずかだった。「私も中学卒業後、父の炭焼きを手伝ったことはありましたが、何十年も前のことですから、全てを詳細に覚えているわけではありません。そこで、住民の知恵や記憶を集めるとともに、近くで炭焼きの復興に取り組んでいた方に

### 再び動き始めた窯が地域に火をともした

こうして同会が設立され、山に残されていた窯跡を利用して窯の再現が行われた。住民が力を合わせ、半月をかけて復興した窯で作り上げた炭の出来ばえは上々だった。「この炭を通して、地区の人々が元気で暮らしていけるように」という夢を託して「夢炭」と命名。道の駅「マキノ追坂峠」やマキノ高原のキャンプ場で販売するとたちまち評判になった。現在、「夢炭」は5kgで1,200円、10kgは2,200円で販売しているほか、東近江市の燃料店が質の高さに惚れ込み、オンラインショップの販売で全国に販路を広げている。

「1回で焼ける炭は多ければ550kgほど。1年のうち、春から秋にかけて7～10回は行いますが、毎年ほぼ完売しています。収益は炭焼きに関わった会員

へ分配しますが、多額ではありません。それでも、お金の換えられない働きがいや生きがいを得ることができ、地域にも活気が生まれました」と古本さんはほほえむ。同会の設立からまもなく4年。地域の活性化を目指す思いは年々高まっている。会員数は約70名、当初の約3倍に増加し、今では半数が女性会員だという。

### 「夢炭」がもたらしたさまざまな変化

集落の近くで道の駅「マキノ追坂峠」を運営する「一般社団法人めいどいんマキノ」も、活動を支援している。新商品として「夢炭」の炭粉や地元の湧水等を配合した「夢炭石けん」を同会と連携して開発し、石けんづくりの講師を招いて講習会を開いた。女性会員が手作りするこの石けんは、製品になるまで1カ月を要する。1個980円と、石けんとしては高めの価格だが、ニキビやアトピーに効果を発揮するとの評判が広がり、リピーターが増え続けている。

さらに道の駅では、女性会員により「夢炭」で焼いた餅の販売も行われている。開催期間は春と秋の土日限定されているが、地元の滋賀羽二重餅米を使用していることもあり、好評を博



「夢炭」で焼いた餅の販売

しているという。「道の駅を訪れる人に地域との交流を経験して、炭火で焼いた餅のおいしさを知ってほしいという思いから、この販売を始めました。最近では高島市内のボランティアの働きかけにより、うつ病などにより家にひきこもりがちの方も販売に加わるようになりました。そのような方々が販売やお客さまとの交流を通して明るくなっていく姿に、私たちも元気をもらっています」と古本さん。

### 市外・県外や若い世代への未来を広めたい

同会の活動の反響は、古本さんたちの期待を超えるほど周囲へ広がっている。会員の多くは地区の住民だが、大津や京都など市外・県外からの参加者も徐々に増えてきた。また、会の認知度が高まるにつれて、地元の小学校や「高島森林体験学校」からの体験学習の申し込み回数は増え続けている。「会の取り組みが広まって、若い世代にも私たちの挑戦に関心を持ってもらいたいと考えています。今後の目標は、若い会員を増やすこと。今、『夢炭』の原料には市内の公共事業等によって切り出された立木を積極的に活用しています。しかし若い世代が増えれば、山の本の活用もより進められますし、炭焼き技術を次世代へ伝えていくことも可能になります」。会の将来を見据え、古本さんは抱負を語る。



集落に新たな力を与えた「夢炭」



「夢炭石けん」の製作風景

\*ナラ枯れ/カシナガキイムシ(カシナガ)が媒介するナラ菌により、ミズナラ等が集団的に枯損する現象

\*「夢炭」「夢炭石けん」の文中記載価格は全て同会の直販価格です。オンラインショップ等での販売価格とは異なります